

発掘成果をふりかえって 2017

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

2017年度の発掘調査を写真でふりかえります。これまで毎年2月発行の「発掘成果を…」の号を年度区切りで発行することにしました。また、ホームページやフェイスブックでも随時新しい情報を発信しています。あわせてお引き立て下さい。



発掘調査の位置



1 烏丸綾小路遺跡 下京区麗々井通松原下の雑屋町（元京都市立麗泉小学校）

弥生時代中期初頭の堅穴建物や、北東から南西方向に流れる流路を確認した。土器や石器が多数出土しており、石器には石甕丁・石鏝・石弁などがある。



2 平安京右京三条三坊五町 中京区西ノ京桑原町

平安時代前期の複数の建物跡が見つかった。大型建物が建ち並んでいた状況から、身分の高い貴族の邸宅であったことがうかがえる。緑釉陶器・灰釉陶器が多数出土しており、「甕」「甕」政所備口」と墨書した土器も出土した。





3 唐横造跡 南区唐福門脇町

弥生時代中期前葉の方形周溝墓が見つかった。最大で一辺 10 m 以上あり、この時期のものとしては大型である。



4 円勝寺跡・成勝寺跡・岡崎造跡 左京区岡崎円勝寺町

京都市美術館の調査で円勝寺と成勝寺を分ける石組溝が見つかった。二条大路末南側溝が維持管理されていた状況も判明した。



5 平安京左京八条三坊八町跡 南区東九条室町

鎌倉時代前半の掘立柱建物、礎石建物、櫓、井戸、道路などが見つかった。礎石建物は、この時期の平安京内では珍しい。



6 伏見城跡 伏見区桃山町正宗

伏見城整備構の北辺土塁断面を調査した。4 m 以上の高さに土質の異なる構築土を積み上げていた。



7 平安京左京八条四坊八町跡 下京区都之町

井戸、竈、土間などのある町屋一軒の区画を検出し、近世の街並み開発の様子が分かった。



8 史跡 教王護国寺境内 南区九条町

東寺北大門の東で弁天堂の厨伽井を検出した。半地下式で、常滑焼の井戸枠の周りを貝殻を混ぜたモルタルで化粧していた。



9 名勝 円山公園 東山区円山町

明治 19 年に開園した円山公園の再整備に伴う調査で、園池部の構造、築造時や改造の様子を明らかにできた。



10 井野祝峰窯 東山区芳野町

幕末に清水七兵衛が築いて以来、基礎部や窯壁を再利用して造り直しを重ねている。京焼の歴史を今に伝える登り窯である。